

平成 31 年度（令和 元年度） 社会福祉法人ユタカ福祉会
事業報告書

◎ 喜連西デイサービス（一般デイサービス・和みデイサービス）

平成31年度も、柔軟な対応を意識して適切なサービス提供に努めた。

利用時間の延長や短縮、変則的な利用等も可能な限り対応する事が出来ており、利用者・家族からも高評価を受けている。他の居宅介護支援事業所からも新たな紹介等を依頼してもらえる事にも繋がっている。また、利用者の意欲向上と楽しみを抱いて頂ける様に、様々な年間行事やクラブ活動を開催しており、外出行事では自然と触れ合える機会を提供する事が出来ている。施設内での行事では特別な昼食として、すき焼きや寄せ鍋、利用者の目の前で調理する天ぷらやハンバーグ等、様々な昼食を提供して、高い満足度を得る事が出来ており、経験された方が知人を紹介して、利用に繋がったケースもあり、あらゆる面で良い効果を得る事が出来た。

地域住民との交流も意識的に取り組んでいる。地域で行われているイベントや、ふれあい喫茶等、積極的に参加している。当施設で開催された、『こてつカフェ祭り』では、障がい者支援事業所との協力で野菜やお菓子の販売を行い、地域の子供達にも楽しめるよう、様々な模擬店を実施し、世代を問わずに多くの方が参加してくださった。また、地域住民の皆様に少しでも貢献できる様に、特製カレーを提供し、笑顔に包まれた活気のある一日を過ごす事が出来た。地域ぐるみの防災では、近年の自然災害にも備える為、地域で開かれている防災訓練に参加し、地域住民と共に防災力を高める事が出来ている。年末では餅つき大会に多数の地域住民が訪れており、地域の拠点の一つとして活動する事が出来た。

平成31年度の一般デイ・和みデイの平均登録利用者数は153名。自事業所、他事業所等も含めて61名の紹介を受け、利用に繋がったのが約48名となっている。前年度よりも平均して登録者数は微増しているが、入院や入所等での利用中止者も多く、入れ替わりが続く状態で、大きく登録者数を増加する事が出来なかった。また、令和2年に入り世界的にコロナウイルスが大流行している事もあり、利用者がサービスの利用を自粛されている為、利用回数が年度末にかけて減少傾向となっている。引き続き徹底して感染者が出ない様に、体調変動を注意深く確認しながら、各職員も衛生面に十分注意をはらい、対応に努めている。

平成31年度を振り返り、次年度ではより強固な体制を構築できる様、職員同士の協力体制を意識し、各関係機関との確実な情報共有、日々の介護水準を向上できる様に努め、地域住民に求められる事業所として確立する事に尽力する。

○年間売上表

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般デイ	7,573 (94)	8,184 (93)	8,120 (96)	7,710 (96)	7,631 (92)	6,486 (86)
和みデイ	2,325 (22)	2,539 (22)	2,459 (21)	2,465 (22)	2,181 (21)	1,569 (15)
予 防	1,114 (38)	1,082 (36)	1,030 (36)	1,007 (35)	1,106 (38)	1,033 (37)
合 計	11,012 (154)	11,805 (151)	11,609 (153)	11,182 (153)	10,918 (151)	9,088 (138)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般デイ	7,682 (87)	7,319 (93)	7,449 (95)	7,057 (94)	7,136 (96)	8,064 (100)
和みデイ	1,662 (16)	1,513 (15)	1,584 (16)	1,149 (17)	841 (14)	962 (15)
予 防	1,149 (39)	1,161 (39)	1,247 (41)	1,200 (39)	1,132 (37)	1,177 (37)
合 計	10,493 (142)	9,993 (147)	10,280 (152)	9,406 (150)	9,109 (147)	10,203 (152)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般デイ	7,947 (97)	8,186 (98)	7,583 (98)	7,875 (96)	7,813 (95)	7,436 (96)
和みデイ	1,369 (20)	1,748 (20)	1,757 (21)	1,860 (24)	2,306 (23)	2,355 (24)
予 防	1,114 (35)	1,106 (35)	1,094 (36)	1,043 (35)	1,091 (37)	1,028 (35)
合 計	10,430 (152)	11,040 (153)	10,434 (155)	11,778 (155)	11,210 (155)	10,819 (155)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般デイ	8,220 (93)	7,435 (91)	7,343 (94)	7,528 (91)	7,184 (93)	6,879 (87)
和みデイ	2,389 (23)	2,545 (25)	2,651 (26)	2,796 (25)	2,380 (24)	2,580 (26)
予 防	1,057 (35)	1,098 (36)	1,085 (36)	863 (28)	887 (29)	930 (30)
合 計	11,666 (151)	11,078 (152)	11,079 (156)	11,187 (144)	10,451 (146)	10,389 (143)

※単位：千円

※（ ）は利用者登録数

○喜連西デイサービス行事報告書

平成31年（令和元年）

4月2日・3日	花見	担当	安部・西尾・鈴木・本川・匹田 道中・村上
5月2～5日	菖蒲湯	担当	安部
5月30～31日	イチゴ狩り	担当	大西・安部・山下・長富・續 浜田・玉崎・西村
6月21日	サプライズウェディング	担当	長富・西尾・安部・鳥丸
7月9～10日	七夕まつり	担当	山下・安部・鈴木
8月20～21日	盆踊り大会	担当	鈴木・西尾・長富
9月18～19日	敬老会	担当	大西・安部・山下・田畠・三谷 本川・玉崎・西村
10月22日	運動会	担当	長富・鈴木・浜田・西村・上村
11月17日	こてつカフェ祭り	担当	大西・安部
11月27日・12月3日	秋のお食事会	担当	安部・大西・山下・田畠・廣橋 伊達・鳥丸・寺嶋・久保
12月18～22日	柚子湯	担当	安部
12月20～21日	餅つき大会	担当	長富・鈴木・安部
12月24～25日	クリスマス会	担当	鈴木・安部・長富・續・本川

令和2年

1月8～9日	初詣	担当	山下・安部・田畠・中尾・匹田
1月21日	新年会	担当	鈴木・長富・本川・西村
2月4日	節分	担当	山下・廣橋・三谷・村上
3月24日～25日	特別料理パーティー		

※ボランティアによるハーモニカ演奏・オカリナ演奏は2か月に1度で開催している。

○平成31年度スローガン

- ・御利用者様が住み慣れた地域で安心して生活が継続できる様に、各関係機関と連携・協力を徹底します。
- ・職員一丸となって、一人一人の御利用者様に「思いやり」の心を持って、より良いケアの提供に尽力します。
- ・各職員が責任感・誇りを持って業務に励みます。

◎喜連西ケアプランセンター

平成31年（令和元年）度においての年間利用者延人数は、昨年度よりも減少となつた。体調不良にて入院し、その後退院し自宅での生活を希望されておられるにもかかわらず、在宅生活の継続が困難との判断で施設入居を余技なくされた方、体調が改善せずに他界された方も多数おられた事が要因と思われる。また、日頃のサービス利用にて状態が良くなり要介護から要支援になられ方も多数おられ、売り上げにも影響している。しかしながら今後の事も踏まえ地域包括に移管することなくそのまま担当を続けた事である程度の維持は出来たと思われる。地域柄一人住まいでの家族も遠方である方が多く、今後も同様の事が予想されるが、住み慣れた地域・自宅でその人らしい生活が要介護状態となつても続けていけるよう、次年度においても医療・介護、また、地域包括支援センターと共同し、利用者が出来るだけ長く自身の思う暮らしが出来るように自立に向けた支援に努め、更に地域に必要とされる事業所を目指す。

○年間目標について

・自立支援の理念においてケアマネジメントを実施する

住み慣れた地域でその人らしい生活が続けられるように、心身の状況・利用者の取り巻く環境を常に確認しながら、各種サービスが偏ることなく、効果的に提供されるよう配慮し、利用者の選択に基づいたサービスに繋げる事が出来た。その結果生活状況も良くなつた方が多くみられている。また、困難事例においては全員で共有し、いつでも対応出来るように心がけた。今後においても継続して実施していく

・信頼関係の構築

利用者はもちろんあるが、その方の家族や近隣住民へも積極的なアプローチを心がけ、また、利用者の急激な変化に対して迅速な対応、適切なアドバイスや支援を行なう事で、信頼関係の構築が出来た。介護支援専門員としての信頼関係を築く事で他事業所からの信頼も深まつたと思われる。また、地域の研修や包括支援センター主催の講習会にも積極的に参加しネットワークの構築に努めた。

・情報管理の徹底

個人情報の保護には十分に注意をし、事業所独自のルールを決め実施出来ている。

今後もより一層管理の徹底に取り組んでいく。

・特定事業所加算の算定事業所として質の高いケアマネジメントを行なう様務める

特定事業所として週に1回施設内研修やケース検討会を実施した。研修内容はケアマネジメントに関連する分野だけでなく介護保険以外の制度、心理学的な分野等様々な勉強も実施している。ケース検討では、全員で意見を出しあう事で、個々のスキルアップにも繋がり、更に担当者間の情報共有や連携を図る事ができている。その他ケアマネジメント以外の業務においても職員間で分担する事により、事業所としての必要書類について周知する事ができ、事業所全体でのスキルアップができている

・職員同士の連携強化

入院・退院される方が多くあったことから他事業所、医療関係者、地域包括 オレンジチームとの連携をとる機会が多くあり、助けられたケースが多くあった。今後に

おいても医療連携を始め各種制度(障害・福祉制度等)との連携を心がけ、利用者・家族・地域がより安心出来るよう、より良い支援に繋げる。事業所内においても「相談しやすい環境」を心掛け、情報共有に努めた。職員同士互いにフォローしあい、報告・連絡・相談を常に行なう事で、自身の担当以外の利用者様の把握もできた。職員間での信頼関係もより一層深まり、それにより得られたチームワークを次年度においても維持・継続し、新規獲得も含め、より良いケアマネジメント業務が実施出来るよう努めていく。

- ・利用者数の確保により収入の安定に努める

昨年より登録者数は増加しているが、入院・入所数が多くみられた。

次年度においても継続して利用者の情報共有、當時連携を図る事で入院・入所数を防ぎ、利用者数の安定に繋げる。また、効率よく事務作業を行ない、新規受け入れ態勢を整える

- ・経費削減の意識を高める

必要以上の事務用品の使用や、印刷ミス・その他無駄がないように各職員がそれぞれ意識を高め実施出来ている。

○年間売上表

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護	2,924(165)	2,891(166)	2,937(164)	3,022(166)	2,727(154)	2,728(155)
予防	81(19)	86(20)	67(16)	75(17)	72(17)	72(16)
区分変更	(4)	(4)	(5)	(3)	(5)	(4)
合計	3,006(184)	2,978(186)	3,005(180)	3,098(183)	2,800(171)	2,801(171)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	2,890(158)	2,748(156)	2,805(157)	2,766(153)	2,775(157)	2,681(151)
予防	79 (19)	96 (21)	104 (24)	98 (23)	102 (24)	88 (21)
区分変更	(2)	(2)	(5)	(2)	(2)	(7)
合計	2,970(177)	2,844(177)	2,910(181)	2,864(176)	2,877(181)	2,769(172)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護	2,645(154)	2,627(151)	2,715(154)	2,755(158)	2,625(154)	2,711(156)
予防	81(19)	85(20)	96(22)	106(25)	103(24)	110(26)
区分変更	(2)	(4)	(5)	(4)	(7)	(4)
合計	2,727(173)	2,712(171)	2,811(176)	2,826(180)	2,728(178)	2,822(182)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	2,602(151)	2,753(158)	2,728(157)	2,714(157)	2,840(164)	2,960(170)
予防	134 (31)	127(30)	133(31)	131(31)	145(32)	140(32)
区分変更	(3)	(3)	(5)	(10)	(8)	(9)
合計	2,737(182)	2,881(188)	2,910(188)	2,846(188)	2,986(198)	3,100(202)

※単位：千円

※（ ）は利用者数

○平成31年度（令和元年） 外部研修

開催日	演題 議題（主催者）	実施内容	出席者
6月15日	喜連地域包括支援センター	成年後見制度・地域の社会資源について（支援者交流会）	松本 河越
11月20日	平野区若年性認知症総合支援センター	成年後見制度と意思決定	河本
11月29日	平野区介護保険事業者連絡会・大阪介護支援専門員協会平野支部	平野区介護保険事業者学術研究会 「ひらの防災元年」	松本 長原
12月14日	認知症高齢者ネットワーク連絡会	専門職研修「一人で外出して戻れなくなるような対象者への支援	松本 河越
令和02年 2月13日	喜連地域包括支援センター	「感染症（結核）」について 大阪市自立支援ケアマネジメント検討会議について	松浦 松本

○平成31年度（令和元年）スローガン

- ・利用者様が自立した生活が送れるよう、地域のネットワーク作りに努めます。
- ・心のこもった対応を！ いつも笑顔と感謝を忘れません。
- ・『報告・連絡・相談』を常に心掛け、全ケースの把握に努めます。

◎ 喜連西小規模多機能型居宅介護施設ゆたか

年度初めは、登録数16名でのスタートだったが、一般デイサービスからの移行で2名、他事業所の小規模より1名の増加があり、年度末では16名（内1名区変中）となった。

認知症状が進み、日常生活の自立度が低下し、在宅生活が困難な為、施設入所希望の方もいるなかで出来る限りながく在宅生活を継続できるよう、利用者本人、家族、主治医と連携を取りながら、通い日数や時間、訪問回数、泊り回数の増加を検討し実施している。

通いサービスでは、余暇活動として、おやつ作りを行い、男女を問わず参加され、調理を楽しめている。また、四季折々の壁紙作りや毎月のカレンダー作りは好評で皆さま楽しみにされている。外出援助では、近隣の公園やスーパー、近場の名所を巡り、大変喜ばれている。さらに地域の交流の場として、ふれあい喫茶や認知症カフェ等へ参加している。

地域行事の防災訓練では模擬体験に参加して貴重な体験ができた。参加者は改めて怖さを痛感しておられた。

運営推進会議は、昨年同様、隔月で実施し、家族、地域住民、包括職員、看護師等の意見や助言、要望など伺い、良い意見交換の場となっている。年度末の会議はコロナウイルスの感染予防のため中止した。

平成31年度（令和元年）の売上は4,436万円となり、昨年度と比較して212万円の増額となった。また、日々の営業活動やホームページを通して、他事業所や家族の方より、新規の問い合わせは増加している。しかしながら、遠方などの理由により断らざるを得ないケースも多い。さらに当事業所においては、他の同施設に比べ面積的理由等から様々な制約を受けるため、登録人数を多く増やすことはサービス悪化に直結してしまう。令和2年度もこのジレンマを抱えながらも、個々の多様化するニーズにできるだけ対応することができるよう心掛け、利用者様の状況を十分考慮した上で、利用登録者増加を目指していく。

○年間売上表

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入	3,058 (13)	3,076 (13)	3,098 (13)	3,562 (15)	3,610 (15)	3,594 (15)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入	3,605 (15)	3,604 (15)	3,653 (15)	3,722 (15)	3,702 (15)	3,962 (16)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入	3,985 (16)	3,825 (14)	3,557 (13)	3,795 (14)	3,816 (15)	3,787 (14)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入	3,957 (15)	3,706 (15)	3,496 (14)	3,288 (14)	3,193 (13)	3,957 (15)

※単位：千円

※（ ）は利用者登録数

○平成31年度（令和元年）の年間スローガン、行事報告

平成31年度（令和元年）の年間スローガン、行事報告に関しては、デイサービス・認知症対応型デイサービスを参照。

◎ゆたか訪問介護ステーション

令和元年度においては、「エンパワメント」を合言葉に、業務改善に力を入れて取り組んだ。サービス提供責任者の業務負担を数値化しサービス稼働時間の削減を実施。月あたり100～120時間あったサービス稼働時間を60～90時間程度まで削減する事に成功し、書類作成や事務所での電話対応、関係機関との連携等に力を入れる事ができた。これにより、シフト作成や請求業務などの一端を担う事ができるようになり、サービス提供責任者のスキルアップにつなげる事ができたといえる。業務の見直しを行う中で、職員よりキャンセル料の徴収が必要ではないかとの声があがり、法人内各事業所と調整を重ねる中で、令和2年4月より徴収を開始する事となった。また、ICT化への取り組みを前年度から行っており、登録ヘルパーへのアンケート調査を行いながらスムーズな導入に向けて検討を続けている。

人員については、登録ヘルパー5名が新たにサービス提供責任者に就任。年度末においては、サービス提供責任者8名と登録ヘルパー36名、計44名にて日々利用者の在宅生活を支える為、奔走している。

介護保険・障がい者総合支援共に、消費税増税に伴う報酬改定や新たな介護職員処遇改善加算の創設により報酬額のUpが見込まれたが大きな変動はなく推移している。前年に引き続き、介護保険サービスと障がいサービスを併用する利用者の増加があり、年間を通して居宅介護においては增收となった。介護保険においては、要支援者の生活援助型サービス利用者数が倍増しており、減収となっている。

このような取り組みを行う事で、年間収益は15,300万を計上。次年度においては、新たな課題の改善を図り、利用者・家族に満足いただけるケア、スタッフが働き易い環境作りに力を入れ、誰もが安心して暮らせる地域作りを目指していく。

○年間売上表

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護	9,326 (135)	9,732 (140)	9,726 (140)	9,793 (140)	9,840 (133)	9,032 (132)
予防	1,868 (94)	1,819 (92)	1,856 (94)	1,889 (95)	1,817 (92)	1,797 (91)
総合支援	1,740 (42)	1,907 (44)	1,943 (46)	2,003 (43)	1,982 (44)	1,890 (44)
保険外	53 (8)	44 (7)	56 (8)	42 (7)	61 (10)	52 (9)
合計	12,988 (279)	13,504 (283)	13,581 (288)	13,728 (285)	13,700 (279)	12,773 (276)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	9,869 (133)	9,584 (131)	9,206 (129)	9,100 (126)	9,108 (126)	9,537 (127)
予防	1,829 (93)	1,881 (95)	1,888 (96)	1,858 (95)	1,434 (90)	1,682 (85)
総合支援	2,106 (34)	2,034 (45)	2,019 (48)	1,873 (45)	1,883 (44)	1,728 (40)
保険外	58 (8)	57 (10)	64 (11)	41 (7)	34 (6)	43 (8)
合計	13,864 (279)	13,556 (281)	13,179 (284)	12,873 (273)	12,761 (266)	12,991 (265)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護	9,181 (124)	9,092 (129)	8,987 (128)	9,772 (127)	9,289 (124)	8,945 (123)
予防	1,709 (89)	1,723 (90)	1,810 (94)	1,774 (93)	1,791 (93)	1,808 (95)
総合支援	1,889 (47)	1,973 (50)	1,732 (49)	1,984 (49)	1,970 (50)	2,057 (52)
保険外	35 (5)	40 (9)	35 (8)	36 (8)	32 (7)	41 (11)
合計	12,815 (265)	12,830 (278)	12,564 (279)	13,567 (277)	13,082 (274)	12,853 (281)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	8,986 (122)	8,804 (123)	8,601 (126)	7,822 (124)	7,841 (119)	8,186 (122)
予防	1,911 (94)	1,947 (95)	1,883 (92)	1,814 (88)	1,759 (87)	1,697 (84)
総合支援	2,399 (55)	2,343 (52)	2,383 (53)	2,271 (49)	2,177 (46)	2,428 (49)
保険外	52 (10)	29 (9)	28 (9)	39 (10)	40 (12)	25 (7)
合計	13,348 (281)	13,124 (279)	12,892 (280)	11,974 (271)	11,818 (264)	12,338 (262)

※ 単位：千円

※ () 内は利用者登録数

○令和元年度 研修会

ヘルパー研修

- 4月 初心とプロ意識を忘れない 接遇の心得
- 6月 認知症と感染症
- 8月 事故発生・再発防止に向けて 見守りの定義
- 10月 訪問介護におけるグレーディング
- 12月 高齢者虐待防止法について
- 3月 ひやりはっとの重要性

○平成31年度 訪問介護 スローガン

合言葉はエンパワメント！

- ・まずは私から～やる気スイッチONにして
- ・利用者も家族もスタッフも持っている力を引き出そう
- ・やるぞ業務改革！ 原点に戻ろうサ責業務 働き易い環境作りをしよう

◎障がい者相談支援センターゆたか

令和元年度においては、前年より引き続き専任職員1名と兼務職員1名の2名体制、利用登録者数は53名にて開始した。

指定特定相談支援及び指定障害児相談支援として、利用者自身が希望する「自立した日常生活・社会生活を支援していく事」を目的とし、本人の意向を尊重しながら必要なサービスが利用できるよう努めた。ニーズを聞き取り、本人の希望を実現する為のサービス等利用計画の作成を行い、サービス利用開始後は、一人ひとりの特性に合ったサービスが提供されているかの状況を把握、定期的に面談を行い、モニタリングを実施した。

新規の初回面談時は必ず相談員2名で訪問・面談を行い、どちらの職員でも緊急時等の対応ができるよう引き続き取り組んだ。また、併設するゆたか訪問介護ステーションとは、利用者情報・近況の連絡・相談を常に行う事により、きめ細やかな支援ができたと言える。

年間を通して、事業所の傾向としては、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所等の利用を希望される方が多く、事業所の見学等で新たな事業所との関りが深く築けた。また、子どもを養育している利用者の世帯は、子供の発達が不安との相談依頼が多く、子育て支援センター、発達支援事業所、放課後デイ、学校等との連携・情報共有する機会が増え連携を図る事ができた。

65歳に到達され介護保険に移行となる方は、区内地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との連携し、円滑に移行ができた。このことから、各関係機関や事業所との信頼関係や連携を図ることで専門的な知識が強化できたと考えられる。

年間を通して、登録者件数の目標は達成しなかったが、新規13名の増加で、60名の利用獲得となった。平成31年4月より、報酬単価が改訂したことにより、基本収入は減少となった。事業所や居宅介護との連携作りを強化し、新に新設された加算の算定に取り組み、売り上げは微増したと考えられる。

○年間度売上表

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本計画	70 (4)	105 (6)	52 (3)	88 (5)	105 (6)	52 (3)
モニタリング	272 (19)	258 (18)	358 (25)	272 (19)	301 (21)	387 (27)
登録者数	(37)	(39)	(41)	(42)	(43)	(45)
合計	343 (23)	364 (24)	411 (28)	361 (24)	407 (27)	440 (30)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本計画	123 (7)	123 (7)	123 (7)	70 (4)	88 (5)	53 (3)
モニタリング	287 (20)	344 (24)	386 (27)	429 (30)	372 (26)	487 (34)
登録者数	(48)	(49)	(49)	(50)	(51)	(53)
合計	410 (27)	468 (31)	510 (34)	500 (34)	460 (31)	540 (37)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本計画	51 (3)	80 (5)	99 (6)	79 (5)	48 (3)	112 (7)
モニタリング	430 (32)	396 (29)	409 (30)	421 (31)	407 (30)	480 (36)
登録者数	(54)	(56)	(58)	(58)	(58)	(61)
合計	481 (35)	476 (34)	508 (36)	500 (36)	455 (33)	592 (43)
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本計画	147 (9)	179 (11)	48 (3)	80 (5)	113 (7)	117 (7)
モニタリング	441 (33)	335 (25)	453 (34)	466 (35)	361 (27)	424 (32)
登録者数	(62)	(60)	(61)	(61)	(61)	(60)
合計	588 (42)	514 (36)	501 (37)	546 (40)	474 (34)	541 (39)

※単位：千円

※（ ）は利用者登録数

○平成31年度スローガン

確かな知識とフットワーク

- ・本人の希望に寄り添い地域での生活を支えていきます。
- ・各関係機関との連携を図り専門的な知識の向上を目指します。
- ・迅速に対応が出来る様に「報告・連絡・相談」を行います。

◎平野区喜連地域包括支援センター

当センターが開設し9年目となった。(委託期間は平成32年度までの4年間)
新型コロナウィルスの影響もあったが、概ね年度計画の通り事業を実施することができた。

○主な取り組みについて

日時	名称	対象者	内容
6月14日	地域支援者交流会	地域関係者・専門職 参加：29名	地域関係者と専門職の交流の機会として地域の社会資源の情報提供と成年後見制度の研修会を開催した。
7月20日	るんるん交流会	地域住民・専門職 参加：175名	平野区医師会、瓜破地域包括支援センター、ブランチと協働して認知症の講演会を開催した。
10月17日	東住吉総合高校 ホスピタリティー授業	高校生 参加：20名	地域の高校生に対して、福祉授業の一環として高齢者の疑似体験と認知症サポーター養成講座を開催した。
11月17日	こてつカフェまつり	地域住民 参加：135名	障がい者の関係機関と協働して、老若男女すべての住民が交流できる行事を開催した。
3月7日	るんるんネット地域住民 向け認知症講演会	住民	平野区医師会、平野区役所等関係団体と協働して認知症の講演会を開催予定だったがコロナウィルスの影響のため中止した。
毎月 第1～4 月曜日	ポレポレ体操教室	高齢者 参加：20～30名	喜連西老人憩の家にて介護・認知症予防のための体操教室を開催した。
第3日曜日	こてつカフェ	認知症の方、地域住民 参加：20～30名	ボランティアの方に運営を協力いただきながら認知症の方、地域住民が集える場としてオープンした。
4月22日 9月27日 2月16日 2月20日	平野警察とコラボ企画	地域住民・専門職	平野警察と協働して、地域行事・会議にて特殊詐欺の啓発活動を実施した。

○総合相談の件数について

- ・相談実人員 955人 (うち認知症疑い 253名)
- ・延べ相談件数 10, 838件 (うち認知症疑い5, 414件)

○会議の開催・参加件数について

- | | |
|----------------------|-----|
| ・地域ケア会議（個別のケース） | 12回 |
| ・地域ケア会議（振り返りの事例検証） | 1回 |
| ・地域ケア会議（見えてきた課題のまとめ） | 1回 |
| ・見えてきた課題の対応のための会議 | 1回 |
| ・地域ケア会議以外の個別ケース会議 | 4回 |
| ・その他のネットワーク構築のための会議 | 93回 |
| ・プランチ連絡会議 | 7回 |
| ・地域密着型サービス推進会議 | 26回 |

○地域活動について

地区	活動内容
喜連	<ul style="list-style-type: none">・ふれあい喫茶での周知活動・民生委員協議会での研修会参加・老人クラブでの周知活動・地域の集いの場での周知活動
喜連北	<ul style="list-style-type: none">・にこにこ教室での講師派遣・民生委員協議会での研修開催・防災訓練の参加・もちつき大会への参加・百歳体操への参加・地域の集いの場での周知活動
喜連西	<ul style="list-style-type: none">・ふれあい喫茶での周知活動・百歳体操への講師派遣・にこにこ教室での講師派遣・防災訓練の参加・盆踊り大会での相談窓口の設置と周知活動（オレンジチームと合同）・敬老会での周知活動・高校での認知症サポーター養成講座の開催
喜連東	<ul style="list-style-type: none">・喜連東地域活動協議会への参画・地域福祉講習会への参加・地域運動会への参加・民生委員協議会への研修開催・いきいきサロンへの参加・こどもフェスタでの周知活動・保育園との合同行事への参加・大学での認知症サポーター養成講座の開催

○介護予防支援事業について

自立支援型ケアマネジメント研修会を定期的に開催し、地域のケアマネジャーに対して自立支援型ケアマネジメントの理念や意義を伝達した。また、インフォーマルサービスの一覧表を作成しの情報提供を行った。

○年間売上表

・前年度（一部委託費を含む）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入	1,374 (609)	1,377 (648)	1,404 (613)	1,352 (627)	1,358 (630)	1,347 (640)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入	1,316 (621)	1,312 (622)	1,337 (622)	1,312 (622)	1,332 (613)	1,316 (612)

・平成31年度（令和元年）（一部委託費を含む）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入	1,367 (638)	1,330 (629)	1,372 (606)	1,370 (606)	1,386 (683)	1,360 (625)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入	1,414 (635)	1,423 (665)	1,486 (674)	1,467 (669)	1,467 (670)	1,477 (683)

※単位：千円

※（ ）は利用者登録数

○研修報告

日時	研修名	場所	参加者
5月21日	大阪府主催 保険者機能強化に向けた研修会	マイドーム大阪	小倉
5月24日	地域包括支援センター介護予防支援業務新任者研修	大阪市社会福祉研修情報センター	伊吹
6月12日	集団指導・人権研修	クレオ大阪中央	松岡
6月25日26日	地域包括支援センター職員基礎研修	京都テルサ	伊吹
5月22日	成年後見制度利用促進研修	大阪市社会福祉研修情報センター	岩田
6月17日	地域包括支援センター職員研修（基礎①）	大阪市社会福祉研修情報センター	伊吹
7月12日	高齢者虐待対応研修	大阪市社会福祉研修情報センター	伊吹
5月30日	自立支援型地域ケア会議における司会者養成研修	マイドーム大阪	中西
6月14日	地域支援者交流会・研修会	西喜連第5住宅集会所	谷本
7月23日	居宅支援部会研修「連携」をテーマに私達ができる事	平野区民センター	西尾
7月24日	接遇・マナー研修	喜連西デイサービス3階	全職員
9月2日	高齢者虐待対応研修	中央区区役所	岩田
7月22日	介護予防活動強化推進事業 担当者研修	大阪私学会館	中西
8月7日	地域包括支援センター職員研修会（管理者①）	大阪市社会福祉センター	安井
9月20日	地域包括支援センター職員研修会（発展①）	中央区民センターホール	中西
12月18日	令和元年度地域包括支援センター職員課題別研修	京都テルサ	岩田
9月27日	自立支援型ケアマネジメント研修会	西喜連第5住宅集会所	松本
10月23日	退院支援にかかる多職種研修会	阿倍野区役所大会議室	小倉
11月1日	地域包括支援センター職員研修会	大阪市社会福祉研修情報センター	西堀
11月25日	介護予防ケアマネジメント担当者研修・フォローアップ研修	大阪府立大学	中西
11月20日	区内専門職向け研修「成年後見制度と意思決定」	平野区役所303、304	中西
12月17日	権利擁護支援のネットワークにおける成年後見制度利用促進の研修会	東成区民センター	小倉
12月13日	令和元年度地域包括ケアシステム推進研修	あべのフォルサ	安井
12月14日	平野区認知症高齢者支援ネットワーク連絡会専門職研修	平野区民ホール	谷本
1月24日	ケアマネスキルアップ事業・ケアプラン点検振り返り研修	中央区役所	中西
1月25日	平野区在宅医療ケアネットワーク研修会	平野区民ホール	岩田・小倉
2月14日	地域包括支援センター職員研修会（管理者②）	大阪市社会福祉センター	安井
2月17日	介護予防活動推進事業	大阪市職員人材開発センター	小倉

○自己評価

- ・自立支援に基づいたケアマネジメントについては今後の課題、センター職員はもちろん地域の介護支援専門員と一緒に検討したい。来年度も継続するが自立支援をより意識していきたい。
- ・地域、高齢者の関係機関とは年々スムーズに連携できる環境が整いつつある、今後については高齢者の関係機関以外（障がい者の関係機関など）においても、ネットワークづくりをしていきたい。来年度も継続する。
- ・定期的にミーティングを開催し情報共有を図り、チームで支援する意識を持つことができた。今後はよりタイムリーに報告・連絡・相談をしながら支援していくことを心がけたい。

来年度はタイムリーに情報共有をすることをより意識して対応できるようにしたい。

○平成31年度スローガン

- ・適切なアセスメントに基づき、その人の能力を最大限引き出せる支援を心がけます。
- ・地域、関係機関との連携を密にし、協働できる体制をつくります。
- ・情報共有をスムーズに行い、みんなで考え方を実践します。

平成 31 年（令和元年）度事業報告書

介護付有料老人ホームゆたか

1、事業期間

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日

2、基本方針

入居者様の尊厳を守り、生きがいを引き出すサービスの提供を目指す。

3、今年度のスローガン

「みんなでなくそうスピーチロック」

「入居者様に喜んで頂く為、共に楽しもう」（外出・レク・傾聴の強化）

4、取り組みについて

平成 31 年度においては、『入居者様の尊厳を守り、生きがいを引き出す』を目標に、入居者と職員が共に生きがいを感じ喜びのある時間を過ごせるよう、様々な取り組みを行ってきた。

4 年目を迎えた施設運営では、入居者の高齢化や平均介護度の上昇、ADL の低下など、様々な問題と直面しながら、適宜業務マニュアルの改善、サービス内容の変更、入居者の状況に合わせたケアが提供できるよう、職員会議を開き検討してきた。日常生活の変化を素早くとらえ柔軟に対応し、その時、その人に何が必要かを真剣に考え対応してきたと言える。

その中で、職員のどのような声掛けが、入居者の尊厳を守り、入居者の楽しんみにつなげる事が出来るのか、一緒になって共に楽しく過ごせる時間を作るにはどうすれば良いかなどを検討し、毎月の行事や取り組みを行っている。

人員に関しては、正職員やパート職員の退職もあり、新規職員の受け入れを実施しながら都度、対応を重ねている。適宜実施した職員研修の中では、様々な内容を取り上げ職員のスキルアップにつなげる事ができた。

ハード面では常時、設備の安全点検を実施しながら、定期的な専門業者による点検や修理、備品の整備等を行っている。防災・消防訓練を実施する事で、職員・入居者共に、防災等への意識付けができ、いざという時の対応について研鑽している。

このような取り組みを行う中で、特に入居者が激減する事もなく満床に近い状態を維持しながら運営する事ができたといえる。

施設での暮らしにおいては、日常生活がいかに安全で安心した毎日であるか、また日々の生活の中で、入居者個々が自分らしい尊厳を持った生活を送り、楽しみを見つける事ができる環境であるか、が大事だと考える。次年度に向けては、入居者により、充実した毎日を過ごして頂けるよう、ADL の維持向上、外出機会の確保やレクリエーションの充実等、満足度の高い安心・安全な暮らしを提供できるよう職員が協力しあいながら運営していきたい。

5、ボランティア受け入れ

施設内行事に演奏やフラダンスのボランティアを受け入れ

ポイント事業によるボランティアの受け入れ（週 2 回程度）

傾聴ボランティア 2 か月に 1 回 1 名

6、施設内研修・施設外研修

5月 13日	認知症って？パーソンフッドとパーソンセナードケア
6月 10日	排泄介助～介護負担を減らす工夫～について
7月 10日	虐待研修～スピーチロックを知ろう～について
9月 9日	嘔吐と感染症について
11月 8日	尊厳を守る介護について共に考え共に学び実践に繋げるために
12月 9日	排泄介助～その人にあった排泄用品～について
1月 13日	高齢者の冬の脱水と冬になりやすい病気について
3月 9日	クレーム対策

7、施設内行事・施設外行事

月	日	施設内行事・施設外行事
4	4・5・6・9	お花見（桜）
	24	消防訓練
5	4・6・7	しょうぶ湯
	23・29・30	外食ツア－INくら寿司
6	27	手作り梅シロップづくり
	24	カラオケ大会
7	26	ハーモニカ（ボランティア）
	4	七夕祭り
8	12	カリーノ保育園園児との交流会
	18	さかい千利休の湯館さかい利晶（外食・観光）
9	25	ハーモニカ（ボランティア） 梅シロップみんなで飲みました。
	28	夏祭り かき氷フェスタ
10	27	敬老会 カリーノ保育園園児との交流会
	23	運動会 理事長特製カレーライス
11	27	ハーモニカ（ボランティア）
	20	天保山大観覧車、アニパ（外食・観光・動物ふれあい）
12	29	ぜんざいの日 消防訓練
	19・20・21	ゆず湯
1	22	ハーモニカ（ボランティア）
	23	クリスマス会
2	1	お正月 書初め・福笑い
2	3	節分 ぜんざいの日
2	16	ハーモニカ（ボランティア）
3	4	ひな祭り

その他：ゆたリンピック・誕生会を毎月開催

8、職員の概要

常勤職員 12名（令和2年3月31日時点）

パート職員 8名（令和2年3月31日時点）

9、入居者様の概要

入居者数 30名（令和2年3月31日時点）

平均介護度 2.7（令和2年3月31日時点、要支援者除く）

平均年齢 86.9歳（令和2年3月31日時点）

売上について（入居者数は短期利用の方も含む）

前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居者数	30名	31名	30名	31名	30名	30名
介護保険	6503	6659	6611	6775	6950	6360
家賃等	4934	5076	5030	4952	5182	4845
合 計	11437	11753	11641	11728	12132	11206
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	29名	31名	30名	30名	30名	30名
介護保険	6081	7797	6412	6348	5626	6362
家賃等	5014	5146	5100	5070	4964	5026
合 計	11096	11703	11513	11418	10591	11389

※単位：千円

平成31（令和2）年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居者数	29名	29名	28名	28名	31名	29名
介護保険	6243	7076	6713	6906	6582	6325
家賃等	5036	5195	5051	5020	5035	5168
合 計	11279	12271	11764	11926	11617	11493
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	30名	30名	30名	29名	28名	29名
介護保険	6937	6595	6440	7516	6328	6872
家賃等	4941	4928	4768	4043	4674	4784
合 計	11878	11523	11208	11559	11002	11657

※単位：千円

◎カリーノ保育園

平成31年度は開園より最多となる年間平均102名（障がい児3名を含む）の在園児数となる。行政と連絡を密に取り合い待機児童の状況等、情報を得る中で、入園に繋げていくことができた。

年々、年齢別園児数のバランスが安定してきているのもあり、好調であった前年度を上回り、より安定した運営を行うことができた。

保育面では、旬の味覚等を堪能できる体験として、様々な食育体験を行った。子ども達からとても好評だったので今後も記憶に残る体験を企画し、継続していきたい。

社会体験では「自己選択」体験の一環として、ホームセンターに行き、野菜の苗や種を子ども達と一緒に選択しながら購入し、栽培、収穫を行った。

又、バイキングレストラン、スーパーでの買い物を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまい、園内での買い物体験を行った。その中で子どもたちが個々で考える機会を持ち、社会性、考察力等を育む良い体験ができた。

特別保育（英語・H I P H O P・学習・お菓子作り・サッカー教室）では子ども達が積極的に取り組む中で、多くの刺激や学びがあり、心身共に成長する姿が見られた。

異年齢児交流を盛んに行い、思いやりの心、助け合う心、豊かな心が芽生える環境を作り、互いに良い影響を受け育ち合うように努めた。

今後も動植物の飼育や栽培、他園交流、世代間交流、地域交流等のイベントや活動を通して、カリーノ保育園だからできる実体験を大切にし、生きる力を育んでいきたい。

今後の課題として、保育士確保が年々困難になってきている。保育実習（高等学校、短期大学等）やボランティア等を通じて、早い段階からアプローチを行い、保育士養成校、ハローワーク等とより連携を深め、人材確保、人材育成に努めていきたい。

又、新型コロナウイルスが流行し、様々な行事などが延期・中止となることが予想されるが、少しでも子ども達が様々な経験ができるように方法を変えながらも行っていきたい。

今後も引き続き動向を見据えながら当園児の年齢バランスを考え、保育園を安定維持できるように努める。

○園児数推移

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳児	10()	10()	11()	11()	11()	11()
1歳児	14()	14()	14()	14()	14()	15()
2歳児	17()	17()	17()	17()	17()	17()
3歳児	20(1)	20(1)	20(1)	19(1)	19(1)	19(1)
4歳児	21()	21()	21()	21()	21()	21()
5歳児	17()	17()	17()	17()	18()	18()
合 計	99(1)	99(1)	100(1)	99(1)	100(1)	101(1)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	11()	11()	11()	10()	10()	10()
1歳児	15()	15()	15()	15()	15()	15()
2歳児	17()	17()	17()	16()	16()	16()
3歳児	19(1)	19(1)	19(1)	19(1)	19(1)	19(1)
4歳児	20()	20()	20()	20()	21()	21()
5歳児	18()	18()	18()	18()	18()	18()
合 計	100(1)	100(1)	100(1)	98(1)	99(1)	99(1)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳児	10()	10()	10()	11()	11()	11()
1歳児	14()	14()	14()	15()	15()	16()
2歳児	17()	17()	17()	17()	17()	17()
3歳児	20()	20()	20()	20()	20()	20()
4歳児	18(1)	18(1)	18(1)	18(1)	18(1)	18(1)
5歳児	22()	22()	22(1)	22(1)	22(1)	22(1)
合 計	101(1)	101(1)	101(2)	103(2)	103(2)	104(2)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	11()	11()	11()	11()	11()	10()
1歳児	16()	16()	16()	16()	16()	16()
2歳児	17()	17()	17()	17()	17()	17()
3歳児	20()	20()	20(1)	20(1)	20(1)	20(1)
4歳児	18(1)	17(1)	17(1)	17(1)	17(1)	17(1)
5歳児	22(1)	22(1)	22(1)	22(1)	22(1)	22(1)
合 計	104(2)	103(2)	103(3)	103(3)	103(3)	102(3)

※単位：名

※()内は障がい児

		平成31年度 年間行事		
4月	101人	入園式・春の遠足(5歳児・松原園合同) <キッズプラザ>・春の遠足(3・4歳児) <ドーム館>		異年齢保育開始
5月	101人	こいのぼりの集い・歯科検診・検尿 サプライズ行事(5歳児)<いちご狩り>		
6月	101人	運動会・内科検診・保健参加・お泊り保育(5歳児・松原園合同) <クリエート月ヶ瀬>・ 子どもセタフエスティバル(5歳児・ブランシング指導)		
7月	103人	職場体験<瓜破中学校>サマーコンサート・プール開き・七夕交流会(4・5歳児)・ プール終了・職場体験<東住吉総合高校>		
8月	103人	職場体験<東住吉総合高校>		
9月	104人	敬老会(3・4・5歳児) ホスピタリティ実習授業<東住吉総合高校>		
10月	103人	消防訓練(消防隊＆消防車と触れ合い) ハロウイン・カーニバル(4・5歳児) 秋の遠足(3歳児・松原園合同) <天王寺動物園>		
11月	103人	内科検診・園外保育(2歳児) <平野西公園>・職場体験<攝陽中学校> 秋の遠足(4歳児・松原園合同) <大泉緑地・すすめワイキング>・交通安全教室(平野CAT隊＆あんにやん) 秋の遠足(5歳児・松原園合同) <奈良公園>		
12月	103人	発表会・防犯教室(平野警察)・保健実習 <城南学園高校>・クリスマスコンサート・クリスマス会 消防訓練(消防隊＆消防車と触れ合い)・年末年始休園		
1月	103人	保育始め・たこあげ大会(3・4・5歳児)・保育参加 節分豆まき・手巻き寿司バーイー		3歳児お昼寝順次終了
2月	103人	喜連西小学校交流会(5歳児)・手洗い指導・保育参加 保育実習<大阪芸術短期大学>		
3月	102人	ひなまつりの集い・鍋バーイー(5歳児) お別れ遠足(3・4・5歳児・松原園合同) <蜻蛉池公園> 社会体験<買い物体験>(5歳児) 卒園式・茶話会(5歳児)		

・その他活動

英語遊び 過3回 (外国語講師 水・木・金)

学習遊び

週2回

ヒップホップダンス

月4回

おやつ作り

月1回

サッカー教室

月1回

巡回指導

月1回

避難訓練 月1回 担当 伊地知・小澤
世代間交流 年3回程度 担当 仲里・西田
異年齢児保育 月1回程度 担当 松本・大西・伊地知・小澤
保育所体験 月1回程度 担当 高田 他
随時 担当 西野

◎松原カリーノ保育園

園児数137人（障がい児6人、要保護児童6人を含む）で前年度よりも3人多い園児数でのスタートとなった。特徴としては、年度途中の入退園児が多く結果的に前年度に比べ園児数の増率が低く、また1歳児が減少するなど園児数の全体的なバランスが崩れつつある。最終的には平均人数が昨年同様139人にとどまった。今後調整をかけながら戻していく必要性がある。

保育運営面では、自然災害（台風）や新型コロナウイルス対応等に追われた年度であった。特に大きな行事の縮小・延期・中止等、また二転三転する対応があったにも関わらず保護者には理解を得ることができた。今回大きく見直した発表会、卒園式に関しては「時間短縮と内容の維持」をテーマに検討会議を重ねた結果、卒園式中の様子を別室でライブ配信をしたり、前もって撮影をしていた動画を合間に流したりした。成果としては「安全な環境の確保・時間短縮と内容の維持」の達成に繋がったと考える。これらを踏まえて今後は感染症拡大防止の有無に関わらず、行事の開催法を子ども達、保護者、職員の負担を考慮した上で、明確化していきたい。また、当園の特色ある保育の1つに挙げられるクッキング保育は、単に食べるだけではなく材料の買い出し、調理器具の扱い方、マナーの習得となり意欲や社会性を養い「子ども達自身の学び」と「生きる力」に繋がった。

職員育成面では、年間を通して「より安心・安全な保育環境を提供すると共に地域交流と職員育成の強化」に努めた。小学校校長・教員との合同園内研修や交流は、両者の課題が互いに共有でき、保育士の意識の改善、質の向上、子ども達にとって小学校への滑らかな移行に繋がり成果がでた。加えて近隣保育園、高齢者施設との交流、富田林家庭児童相談所職員・松原市職員との三者会議の参加は、他施設・他機関職員との話し合いで、

「テーマに副って意見を述べる」経験となり、保育士として大きな成長に繋がった。保育面では実体験を通しての保育、計画性のある保育、継続性のある保育の大切さ等が職員に更に浸透した。

令和2年度は139人でのスタートとなる。より丁寧で個々の成長を受け止める保育、子どもの主体性が重視される保育、特色ある保育を柱にし、保護者支援の必要性を全職員が共通理解した上でそれを継続していく。また、幼児教育アドバイザーを修得した保育士2名を中心として、保育士が主体的に保育の質の向上を追求し深め、職員の自己研鑽に対する援助や助言を細やかにできるような体制を整えていく。情報ネットワークを構築し、流動的な社会の流れ・保育制度に迅速な対応し、利用者にとって、働く職員にとっても、最高の環境を提供できるよう最善の努力をしていきたい。

○園児数推移

・前年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳児	7 ()	9 ()	9 ()	10 ()	11 ()	13 ()
1歳児	25 ()	24 ()	24 ()	25 ()	25 ()	24 ()
2歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
3歳児	25 (1)	26 (1)	26 (1)	26 (1)	26 (1)	26 (1)
4歳児	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)
5歳児	27 (3)	27 (3)	27 (3)	27 (4)	27 (4)	27 (3)
合 計	134 (6)	136 (6)	136 (6)	138 (7)	139 (7)	140 (7)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	13 ()	14 ()	14 ()	14 ()	14 ()	14 ()
1歳児	24 ()	23 ()	23 ()	23 ()	23 ()	24 ()
2歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
3歳児	26 (1)	26 (1)	26 (1)	26 (1)	27 (1)	27 (1)
4歳児	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	26 (2)
5歳児	27 (3)	27 (3)	28 (3)	28 (3)	28 (3)	28 (3)
合 計	140 (7)	140 (7)	141 (7)	141 (7)	142 (7)	144 (7)

・平成31年度（令和元年）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0歳児	10 ()	11 ()	11 ()	11 ()	13 ()	13 ()
1歳児	23 ()	23 ()	24 ()	23 ()	23 ()	23 ()
2歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
3歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
4歳児	29 (3)	29 (3)	29 (3)	29 (3)	29 (3)	29 (3)
5歳児	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)
合 計	137 (5)	138 (5)	139 (5)	138 (5)	140 (5)	140 (5)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	12 ()	14 ()	15 ()	16 ()	16 ()	17 ()
1歳児	23 ()	23 ()	22 ()	20 ()	20 ()	20 ()
2歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
3歳児	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()	25 ()
4歳児	29 (3)	29 (3)	29 (3)	28 (4)	28 (4)	28 (4)
5歳児	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)	25 (2)
合 計	139 (5)	141 (5)	141 (5)	139 (6)	139 (6)	140 (6)

※単位：名

※ () 内は障がい児

令和元年度 行事報告書

月	園児数	行事		
4月	137	入園式・進級式・各学年クラス会 ・春の園外保育(3歳児)〈中央南公園〉 (4・5歳児)〈大泉緑地〉 ・子どもの日の集い	お菓子作り(4・5歳児)月1回 園庭開放(地域)第3火曜 高齢者交流 月1回 お誕生日会(全クラス)	
5月	138	・社会見学(本園合同5歳児)〈キッズプラザ〉 ・各学年個人懇談(希望制)・蟻虫検査・検尿 ・保育参加 ・地域いちご狩り(3・4歳)・いずみ小川いちご農園いちご狩り(5歳児) ・カレーパーティー(4・5歳児)・手洗い指導 ・交通安全指導(松原警察署来園) ・避難訓練(松原消防署来園)・内科検診 ・松原第三中学校 職業体験(3名 2日間)	異年齢保育開始(3・4・5歳児)	
6月	139	・歯科検診 ・ブラッシング指導 ・中央小学校5年生 職場体験 ・夏遠足＆お泊り保育(4・5歳児本園合同) ・田植え(5歳)・お祭りごっこ		
7月	138	・七夕の集い・七夕コンサート ・プール開き		
8月	140	・プール遊び		
9月	140	・保育実習(常磐短期大学 1名) ・保育実習(常磐大学 1名) ・園内研修(講師:中央小学校校長) ・運動会総合練習 ・クッキング保育(5歳)※カツカレー他 ・松原第三中学運動会(5歳児)		
10月	139	・運動会・各学年クラス会 ・松原第三中学校 職業体験(2人 2日間) ・稻刈り(5歳児) ・さつまいも掘(4・5歳児) ・サプライズ遠足(長居公園5歳児)※お弁当作り 31アイスクリーム	5歳児 昼寝終了	
11月	141	・保育実習(常磐短期大学 3名)・さつまいも掘(2・3歳児) ・松原第二中学校 職場体験(4名 2日間) ・園外保育(4歳児本園合同)〈大泉緑地・バイキング〉 ・園外保育(2歳児)〈大池公園〉 ・ヒューマンタウンフェスティバル(5歳児)・ ・中央小学校交流会(幼児/1年生 松原カリーノ保育園内) ・歯磨き指導(歯科衛生士来園)・手洗い指導 ・中央小学校秋祭り(5歳児) 中央小学校体育館 ・園外保育(5歳児本園合同)〈電車 奈良公園〉(3歳児本園合同)〈天王寺動物園〉		
12月	141	・保育参加 ・ブラッシング指導・内科検診 ・防犯教室(松原警察署来園) ・避難訓練(松原消防署来園) ・観劇「一芸ボランティア ジャビジャビ」 ・カレーパーティー(3・4・5歳児)・獅子舞 ・サンタクロース来園・年末年始休園		
1月	139	・保育初め ・中央小学校交流(5歳児/1年生・5年生)		
2月	139	・節分豆まき・個人懇談(希望制) ・保育実習(大阪芸術短期大学 1名) ・クッキング保育(5歳)春雨チキン他 ・生活発表会総合練習(縮小)・生活発表会・各学年クラス会		
3月	140	・ひなまつり交流(5歳児/地域高齢者 縮小) ・コマ回し大会(縮小) ・買い物ごっこ(5歳児・おやつ購入)園内 ・お別れ遠足(4歳児・5歳児本園合同)〈蜻蛉池公園〉 ・お別れミニ運動会(乳児・幼児別)〈園周辺・園庭〉 お別れ会 ・ちゃんこ鍋パーティー(4・5歳) ・卒園式&茶話会(縮小)	↓	↓

◎社会福祉充実計画についての報告

平成31年度の2か年目の事業計画として、職員給与充実事業10,000千円・職員育成事業3,000千円を見込み、社会福祉の充実にあたった。

2年目の実績については、人件費：前年比20,235千円増しの579,712千円で、平成29年度（平成30年3月末日）からの投資額累計60,619千円。研修費等：前年比488千円減の367千円で、平成29年度からの投資額累計261千円となり、人件費+研修費等の累計額60,880千円となった。当初充実計画では、年間投資額を13,000千円の2年間の累計26,000千円としていたので、34,880千円の差額が出ている。

職員給与充実事業については、ここ数年職員人材不足が慢性化しており、給与が常軌を逸する程に上昇している為、充実計画を狂わせている。職員育成事業については、先に挙げた職員人材不足の為、研修受講等に十分な時間を費やすことができなかった故、各職員に対し必要最低限の資質向上（研修受講等）を施すほかなかった。

当計画を総合的に捉えれば、現在のところ見直しを行うほどの額の乖離がないため、3か年目も従来のまま執りしていくものとするが、1・2年度の実績を鑑みての結果から考慮すれば、4か年目においては、抜本的な計画の変更を行わねばならないと思われる。

社会福祉充実計画　投資実績管理表

計画対象期間：H30.7.1～R05.3.31

当初充実計画

	H30.3月末	H31.3月末	R02.3月末	R03.3月末	R04.3月末	R05.3月末	合計
社会福祉充実残額	110,130,000	97,130,000	84,130,000	71,130,000	58,130,000	0	
計画①							
職員給与充実事業		10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	50,000,000
計画②							
職員育成事業		3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	15,000,000
計画③							
保育所の用地購入事業						45,130,000	45,130,000
投資額計		13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	58,130,000	110,130,000

実際投資額（電子開示システム入力額）

計画①							
人件費支出合計	539,285,162	559,476,749	579,712,660				
差額（投資額）	20,191,587	40,427,498	-539,285,162	-539,285,162	-539,285,162	-539,285,162	
差額（投資額累計）	20,191,587	60,619,085	-478,666,077	-1,017,951,239	-1,017,951,239	-1,557,236,401	
計画②							
研修研究費支出	480,978	856,278	367,400				
差額（投資額）	375,300	-113,578	-480,978	-480,978	-480,978	-480,978	
差額（投資額累計）	375,300	261,722	-219,256	-219,256	-700,234	-700,234	-1,181,212
計画①+②合計（システム入力額）	20,566,887	60,880,807	-478,885,333	-478,885,333	-1,018,651,473	-1,018,651,473	-1,558,417,613
実際残額	89,563,113	49,249,193	589,015,333	589,015,333	1,128,781,473	1,128,781,473	1,668,547,613